

発達期脳性運動障害の小脳病変と症候-2 -早産白質障害-

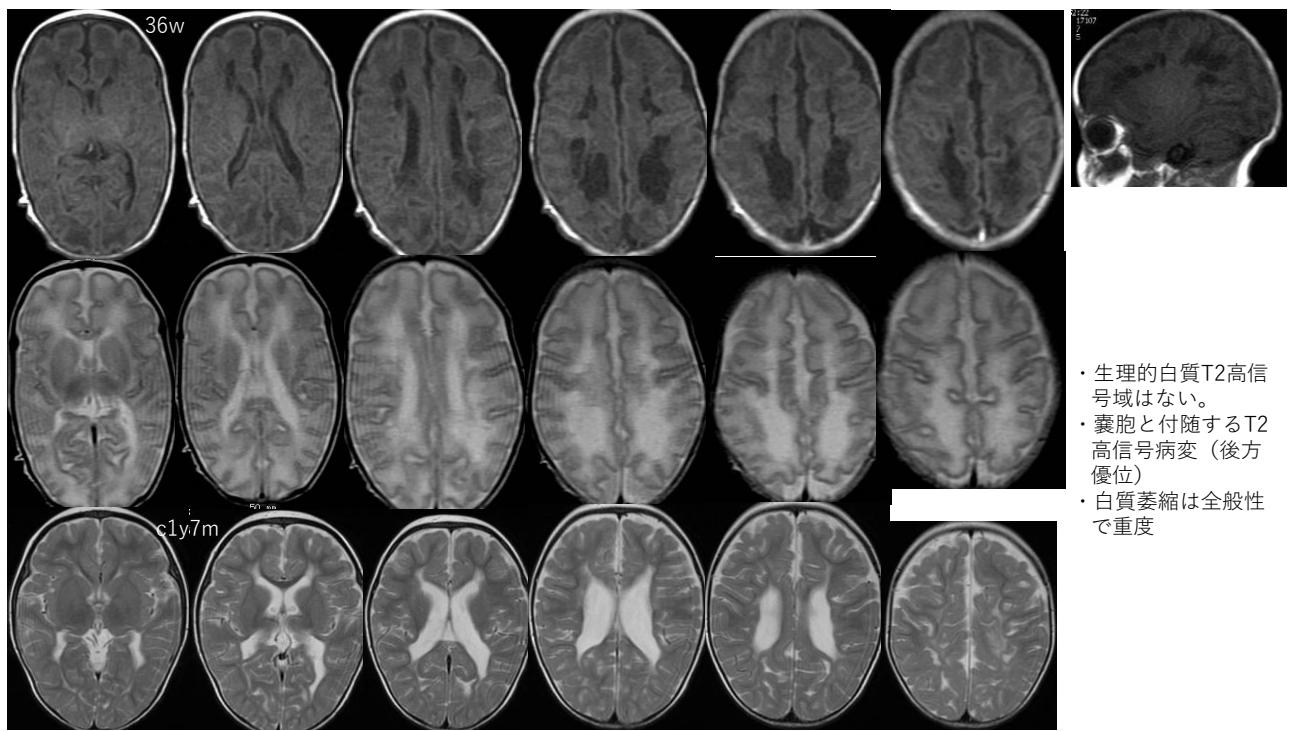


1

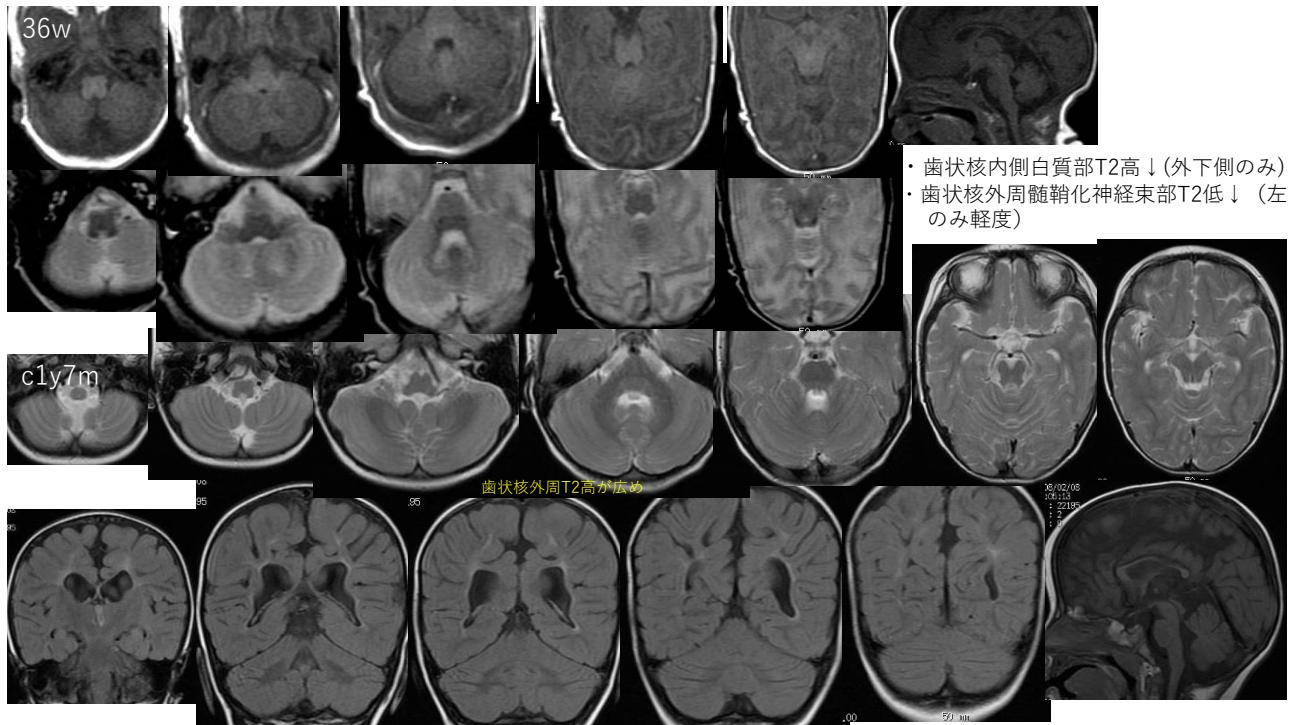
早産白質障害・軽度ID 31w・四つ這い c2y7m、10y以後退行（最高機能；手を引いて歩く、杖歩行少しできる）11y；膝歩き・軽度ID



2



3



4

2

早産白質障害・横地分類A2

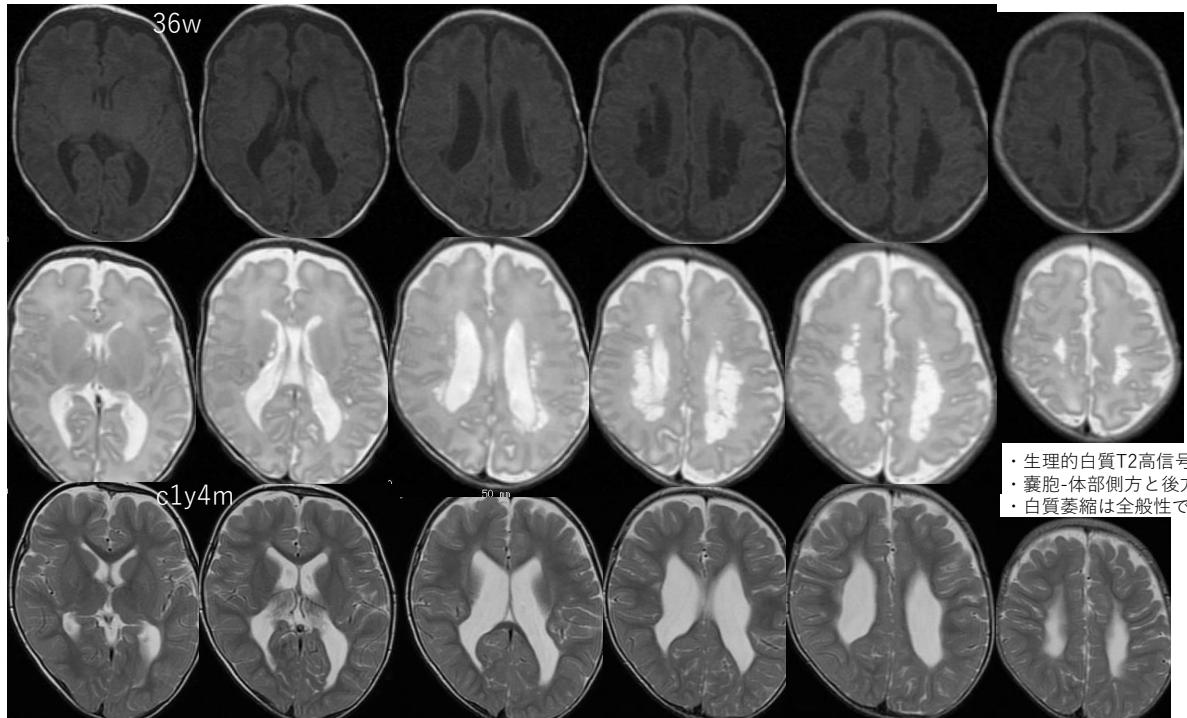
29w

c3y9m

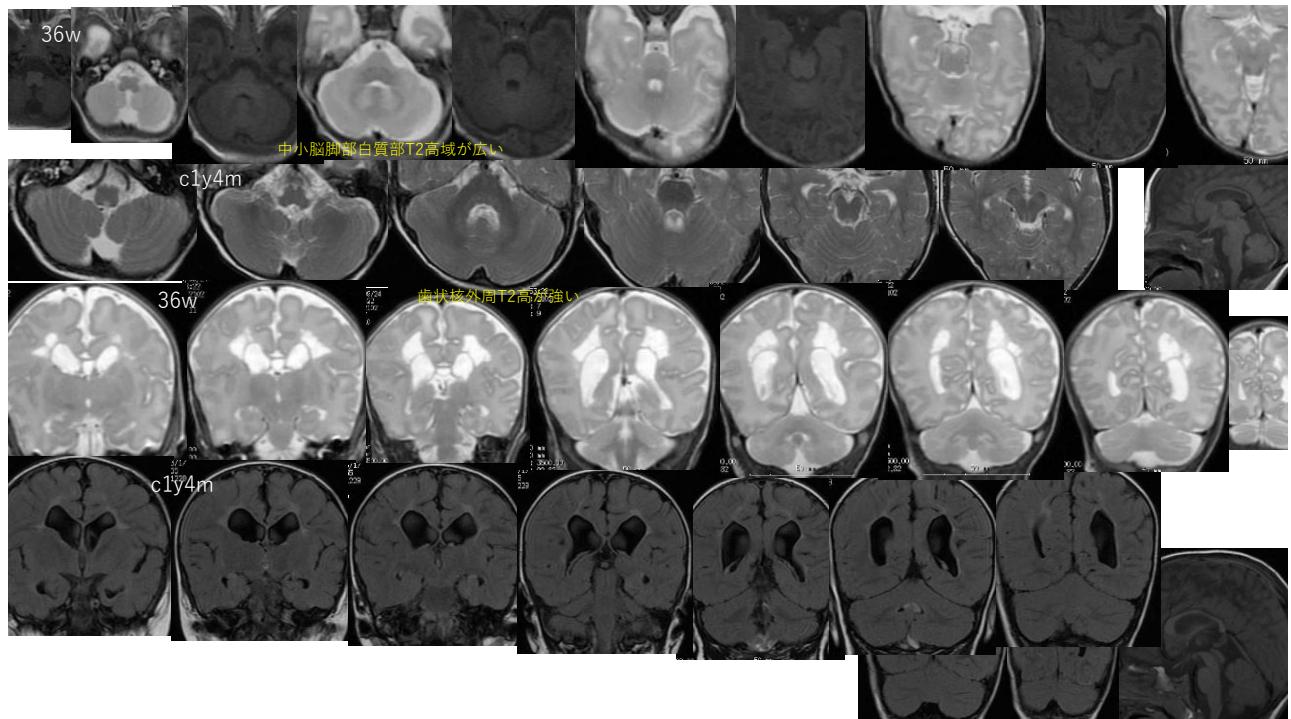


- ・股伸展荷重制限 > 股屈曲過活動 *体幹伸展
- ・分離運動制限
- *下肢伸展: 股伸展荷重制限 > 分離運動制限
- *上肢は伸展常時筋収縮状態が優勢

5



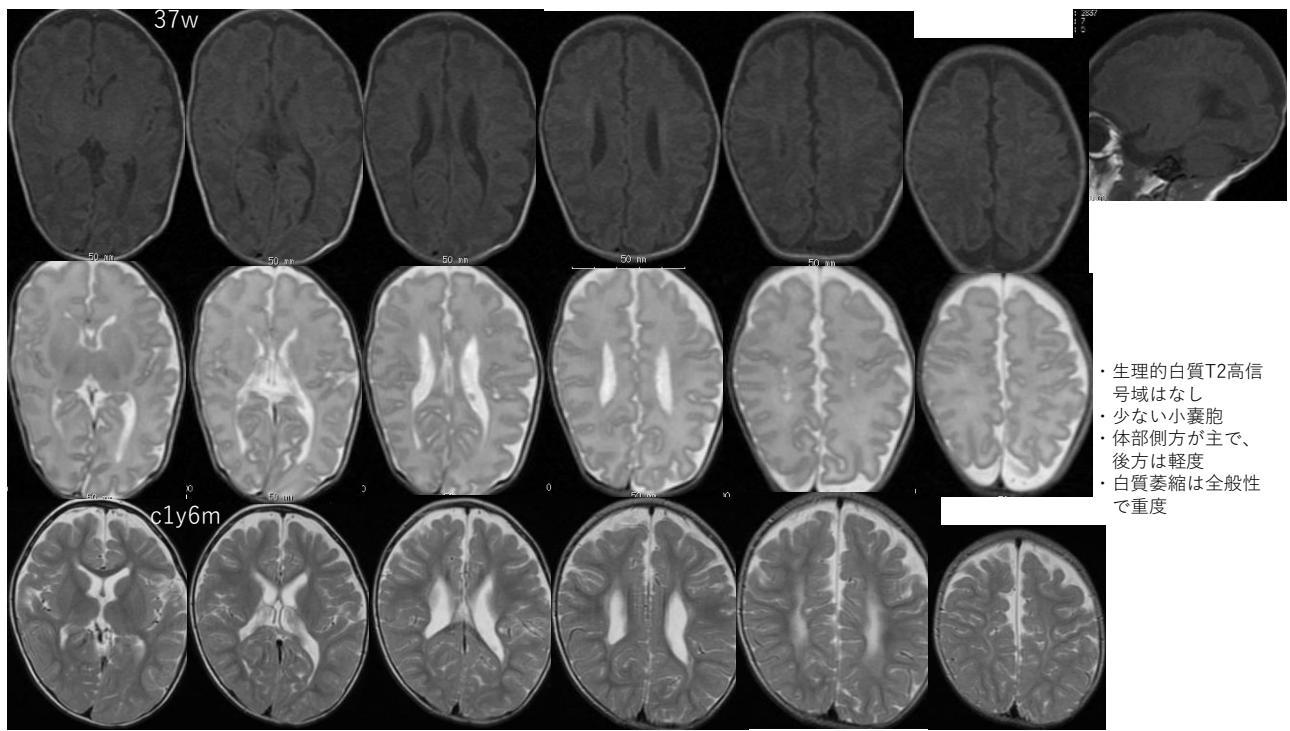
6



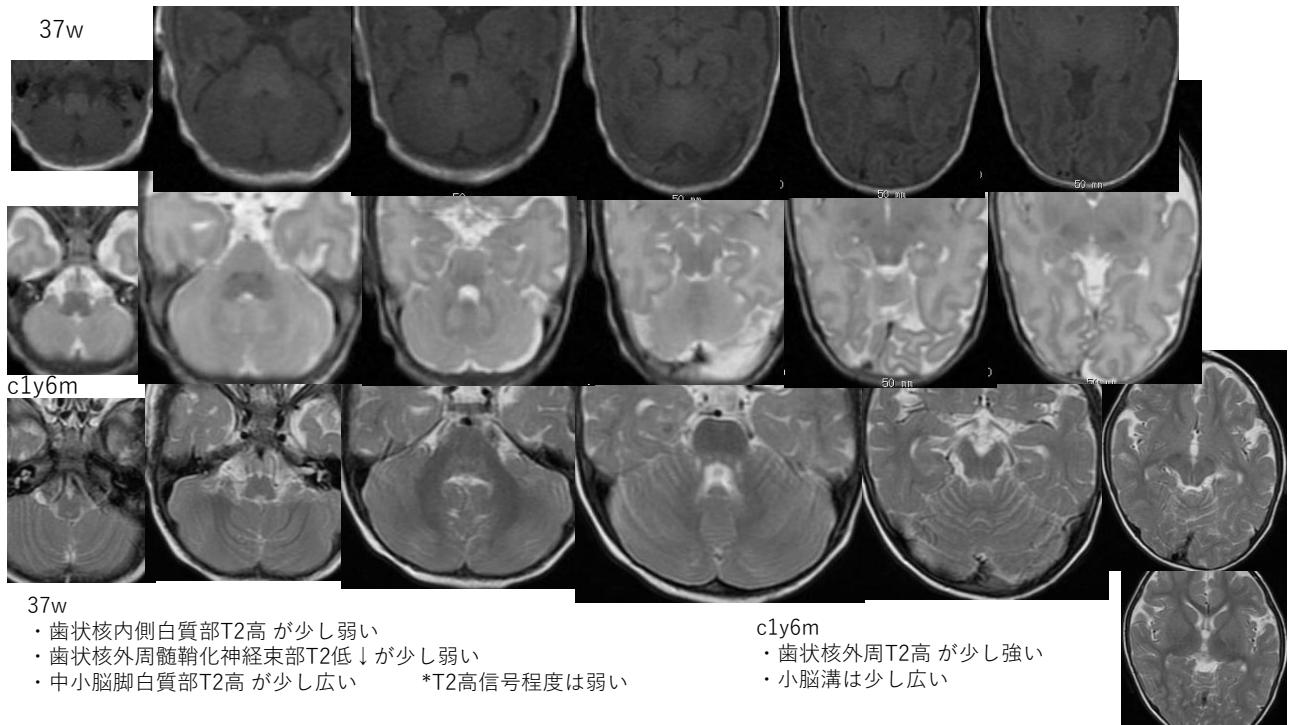
7



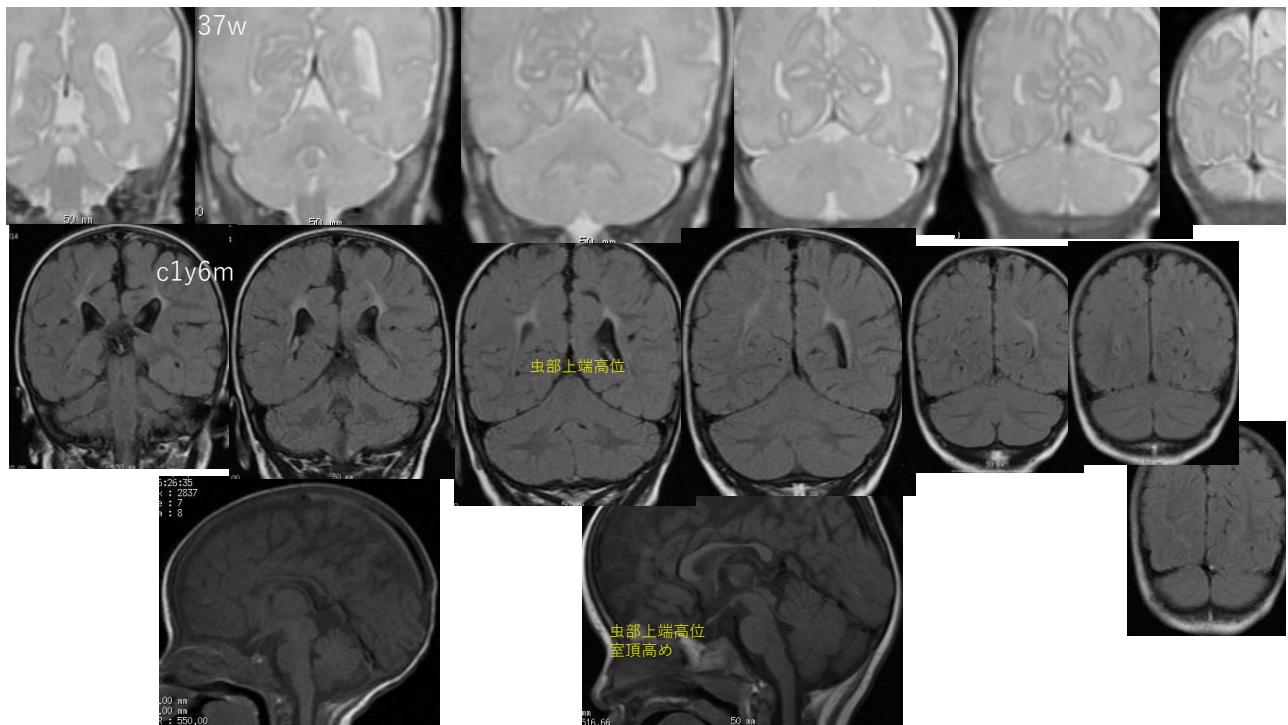
8



9



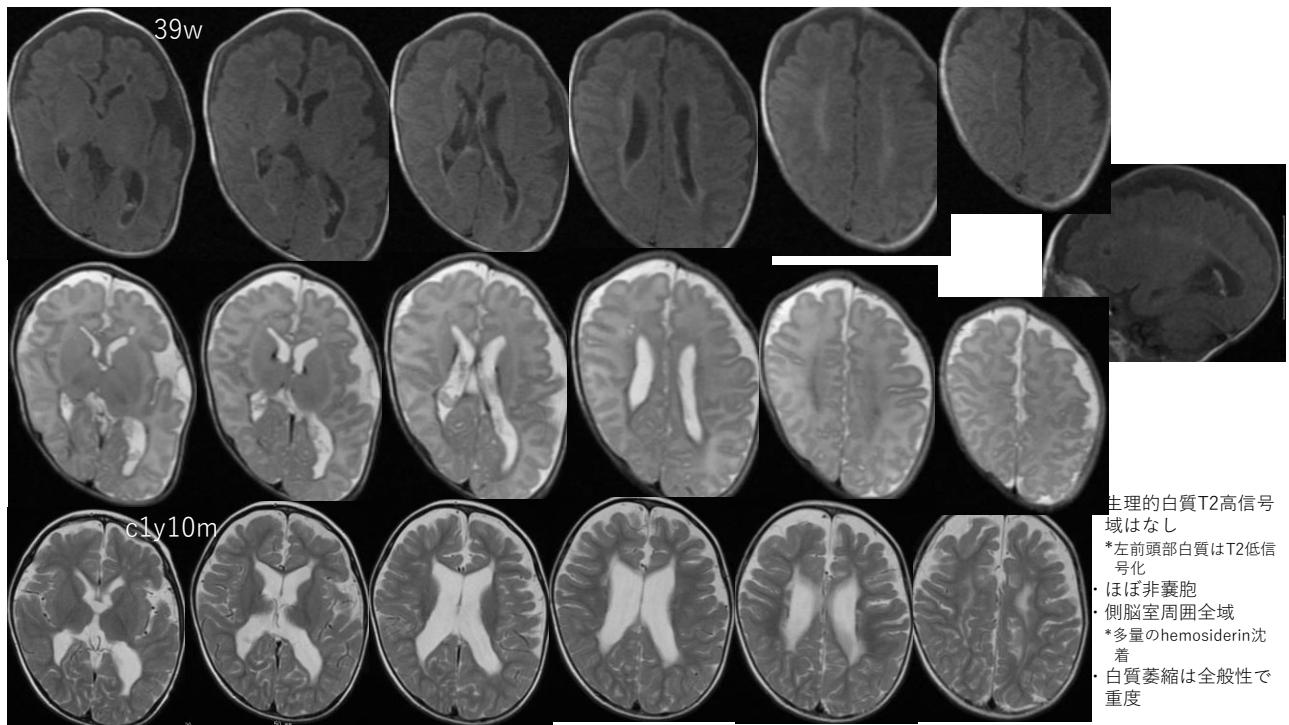
10



11

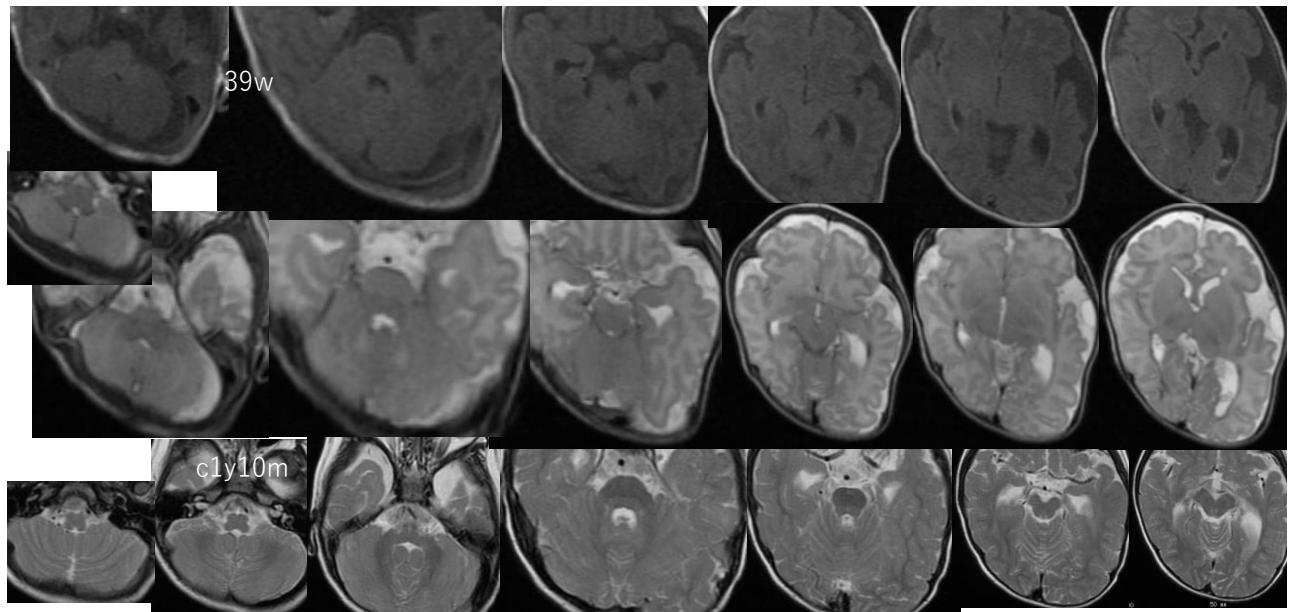


12



13

- 生理的白質T2高信号域はなし
- *左前頭部白質はT2低信号化
- ・ほぼ非囊胞
- ・側脳室周囲全域
- *多量の hemosiderin 沈着
- ・白質萎縮は全般性で重度



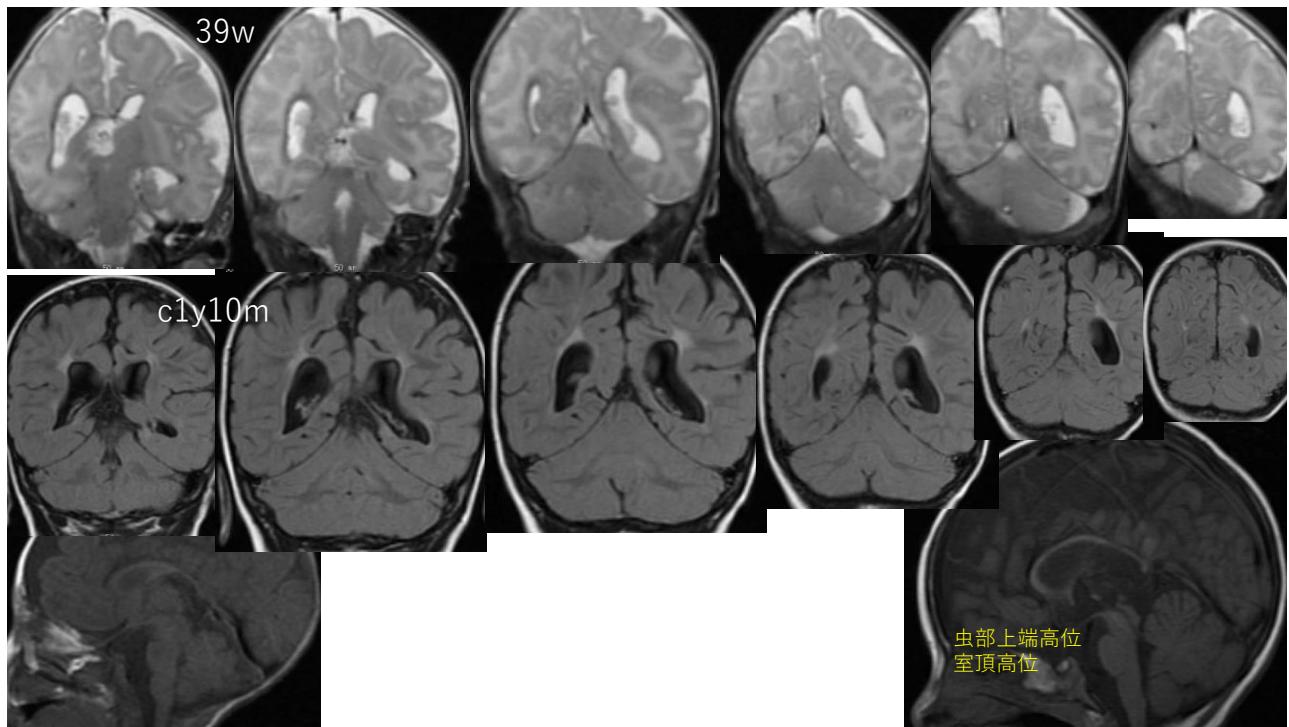
39w

- ・歯状核内側白質部T2高が少し弱い
- ・歯状核外周髓鞘化神経束部T2低が弱い
- ・中小脳脚白質部T2高が弱い

c1y10m

- ・髓鞘化白質部が狭い
- ・歯状核外周T2高が強い
- ・小脳溝は少し広い

14

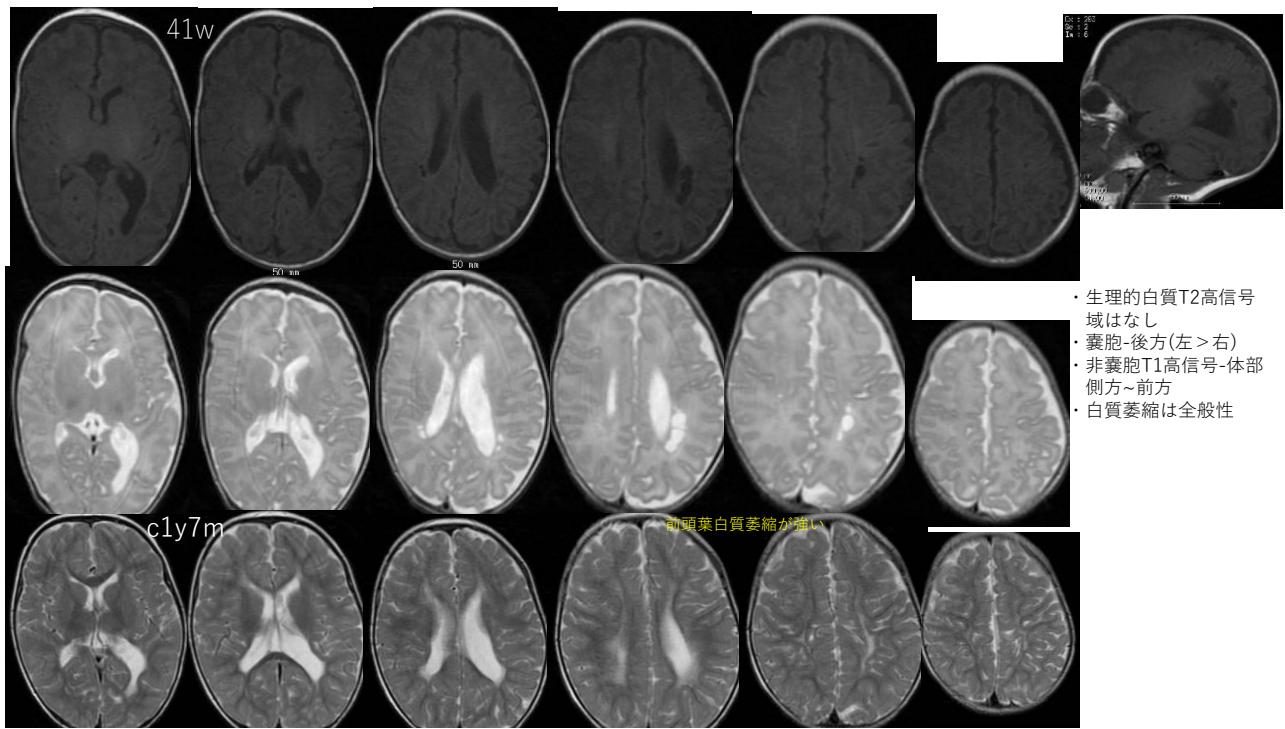


15

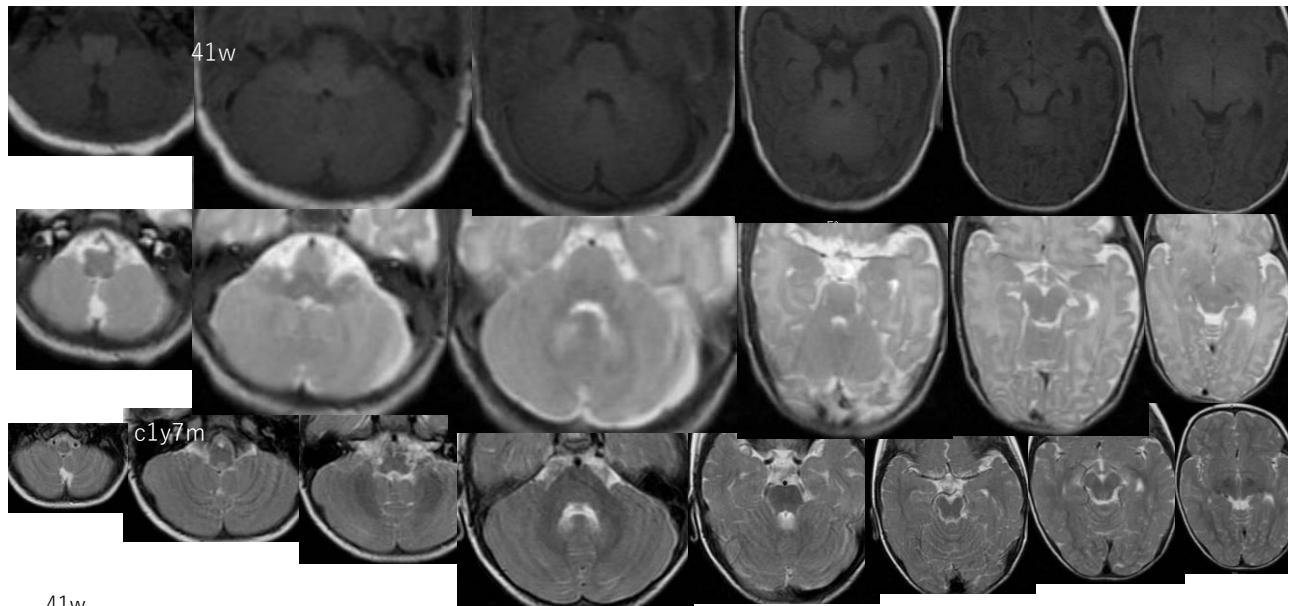
早産白質障害・軽度ID



16



17

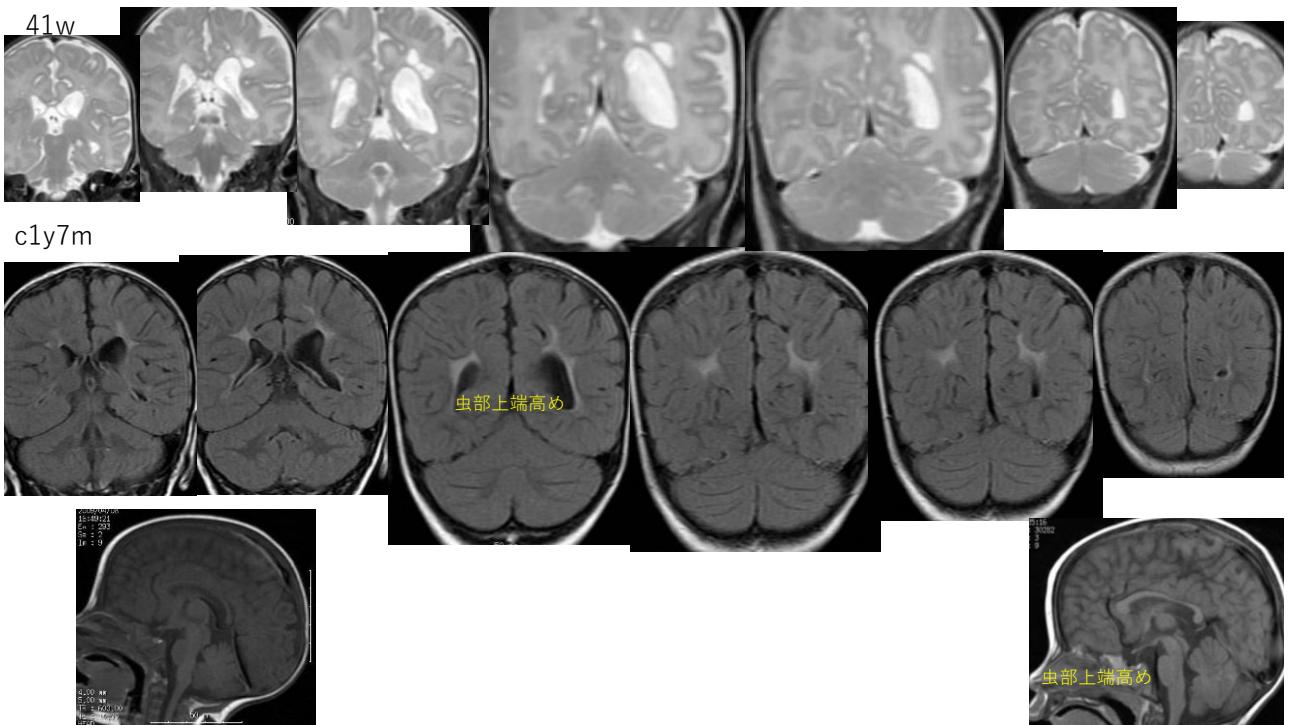


41w

- ・歯状核内側白質部T2高 が弱い
- ・歯状核外周髓鞘化神経束部T2低 が弱い
- ・中小脳脚白質部T2高 が弱い

- c1y7m
- ・髓鞘化白質部が少し狭い
 - ・歯状核外周T2高 が強い

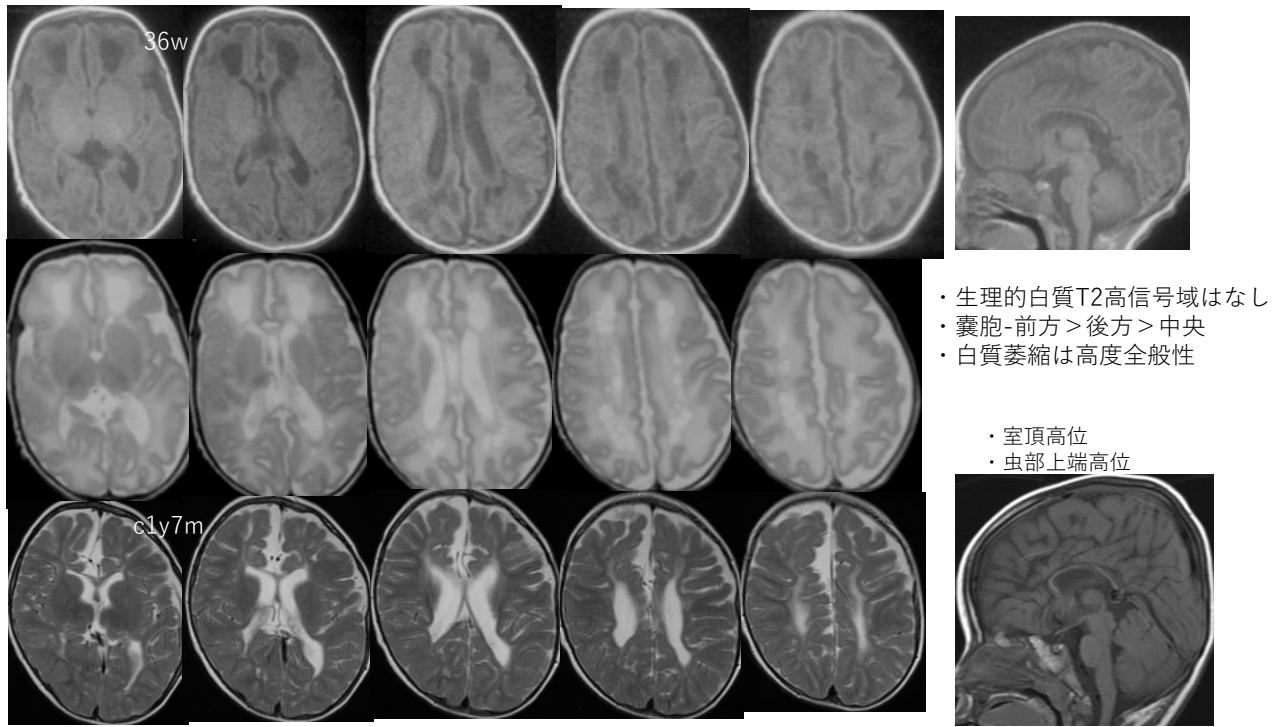
18



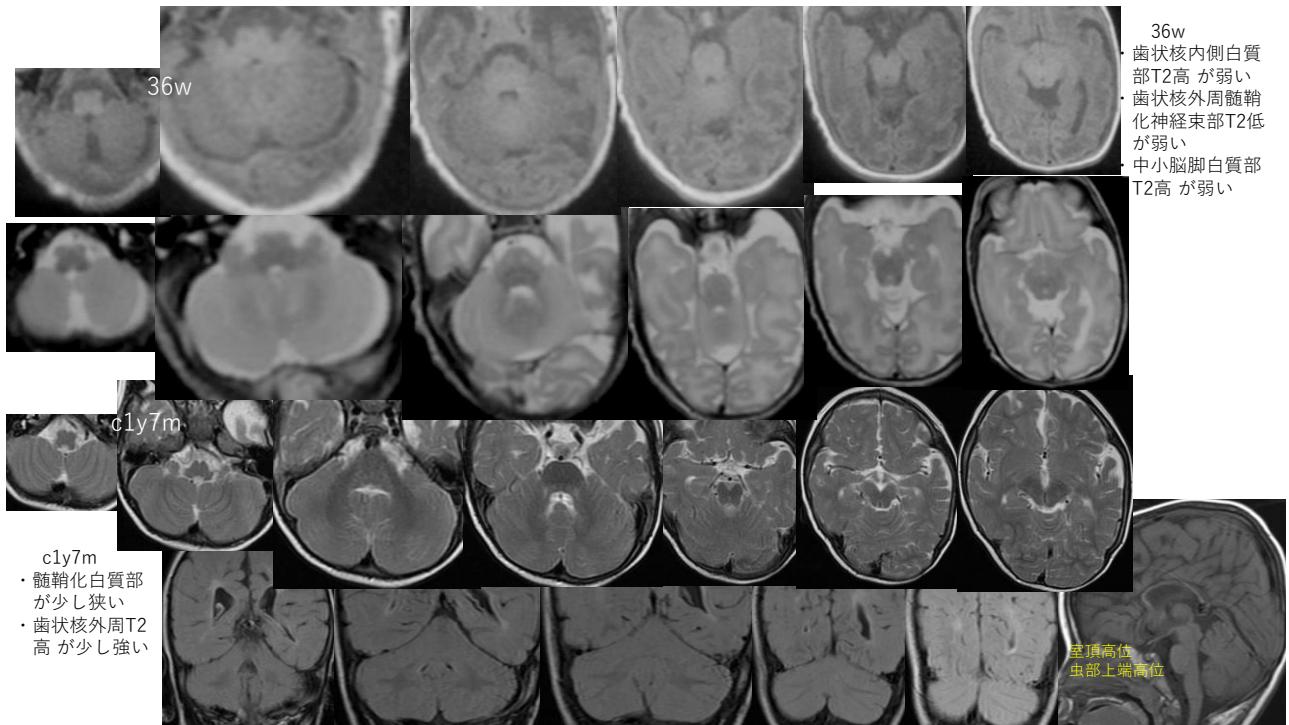
19



20



21

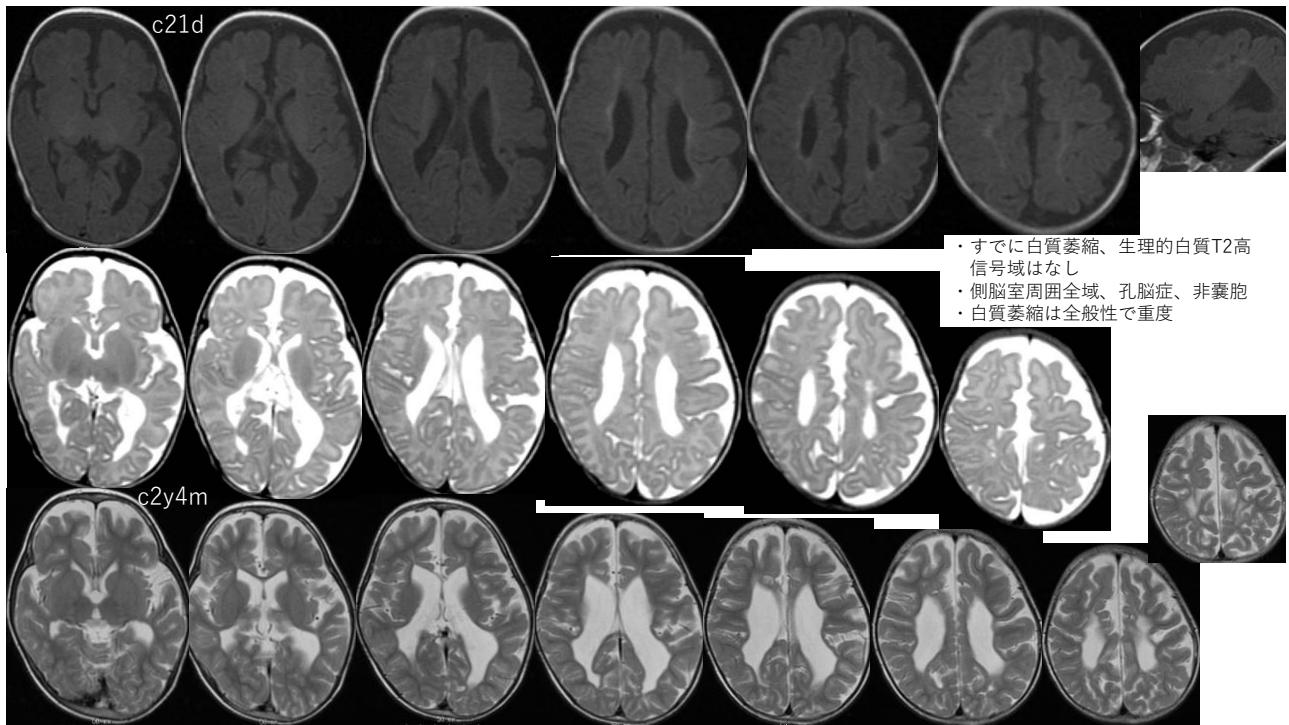


22

早産白質障害・横地分類A1

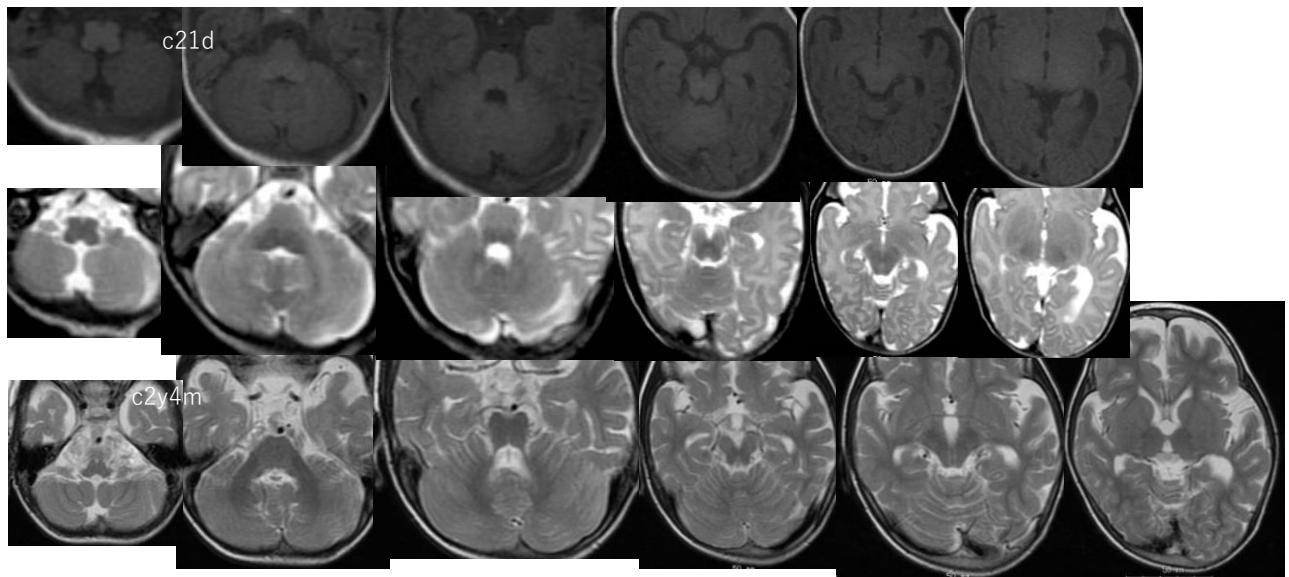


23



24

12



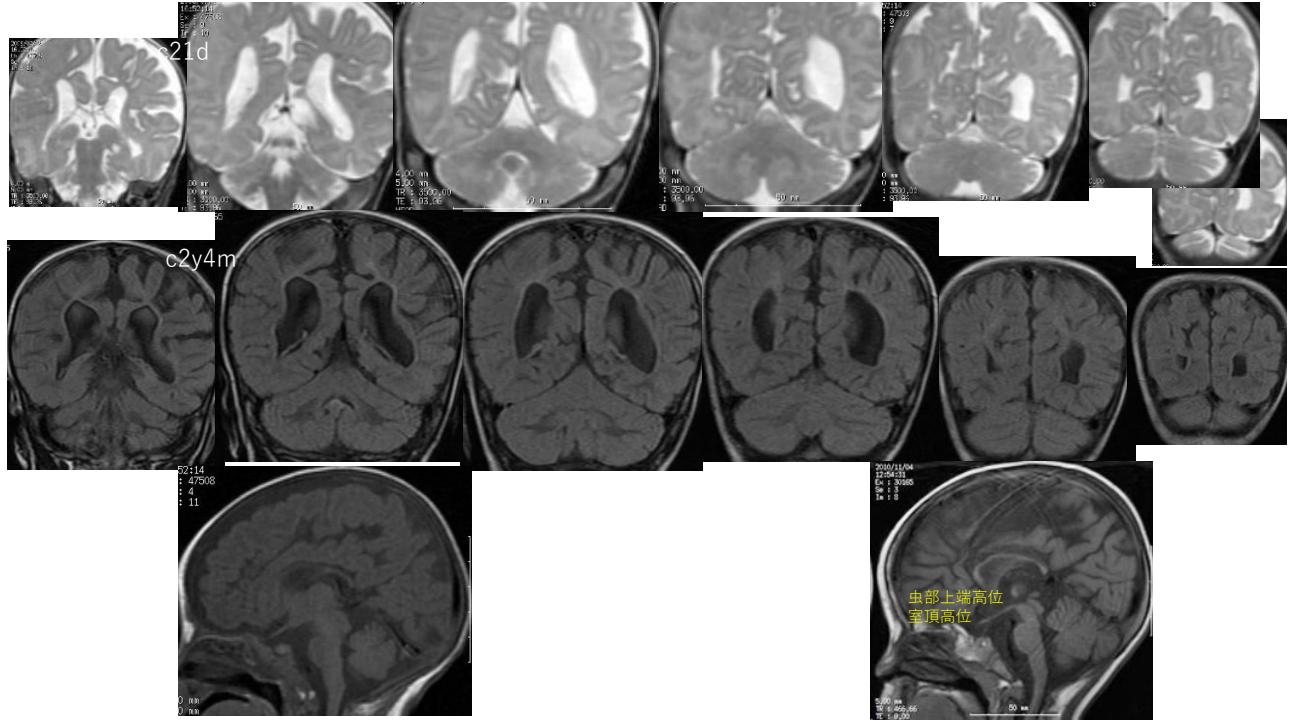
c21d

- ・歯状核内側白質部T2高 が弱く、同部が委縮
- ・歯状核外周髓鞘化神經束部T2低 が弱い
- ・中小脳脚白質部T2高 の部が広い

c2y4m

- ・髓鞘化白質部が少し狭い
- ・歯状核外周T2高 が少し強い
- ・小脳溝は拡大

25



26

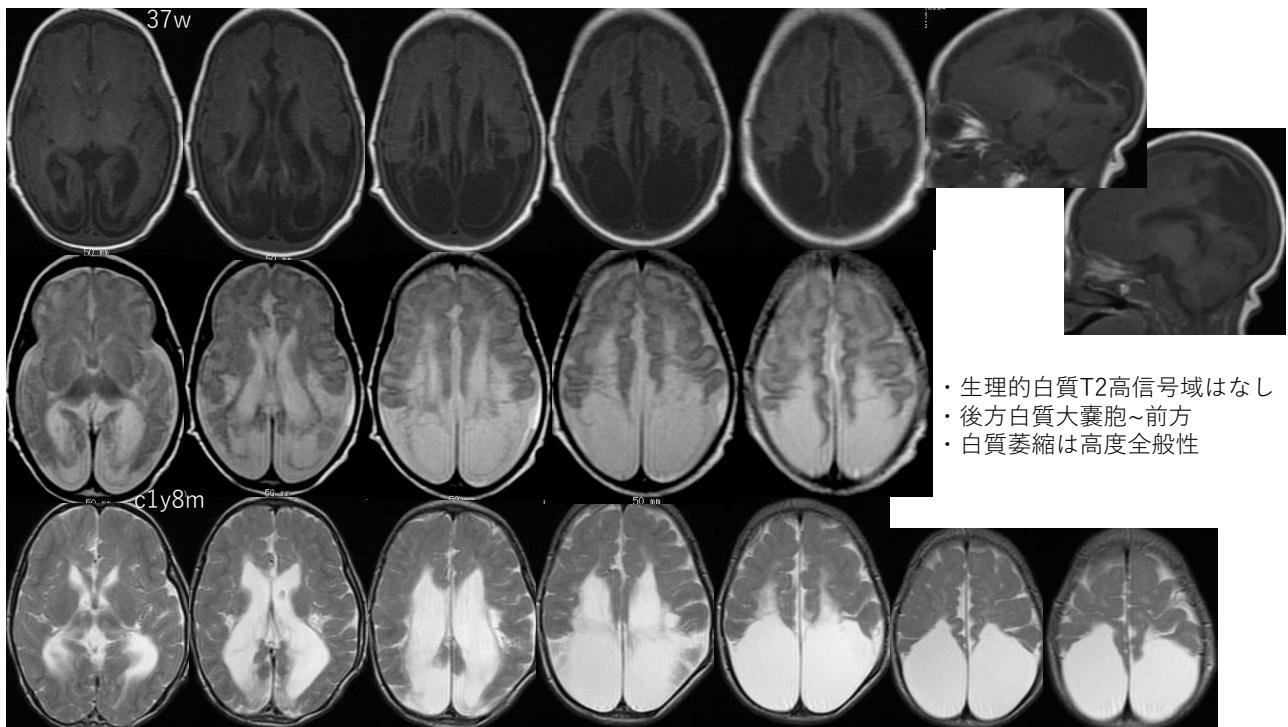


- ・股屈曲過活動÷股伸展荷重制限
- ・分離運動制限

*下肢伸展: 股伸展荷重制限 > 分離運動制限

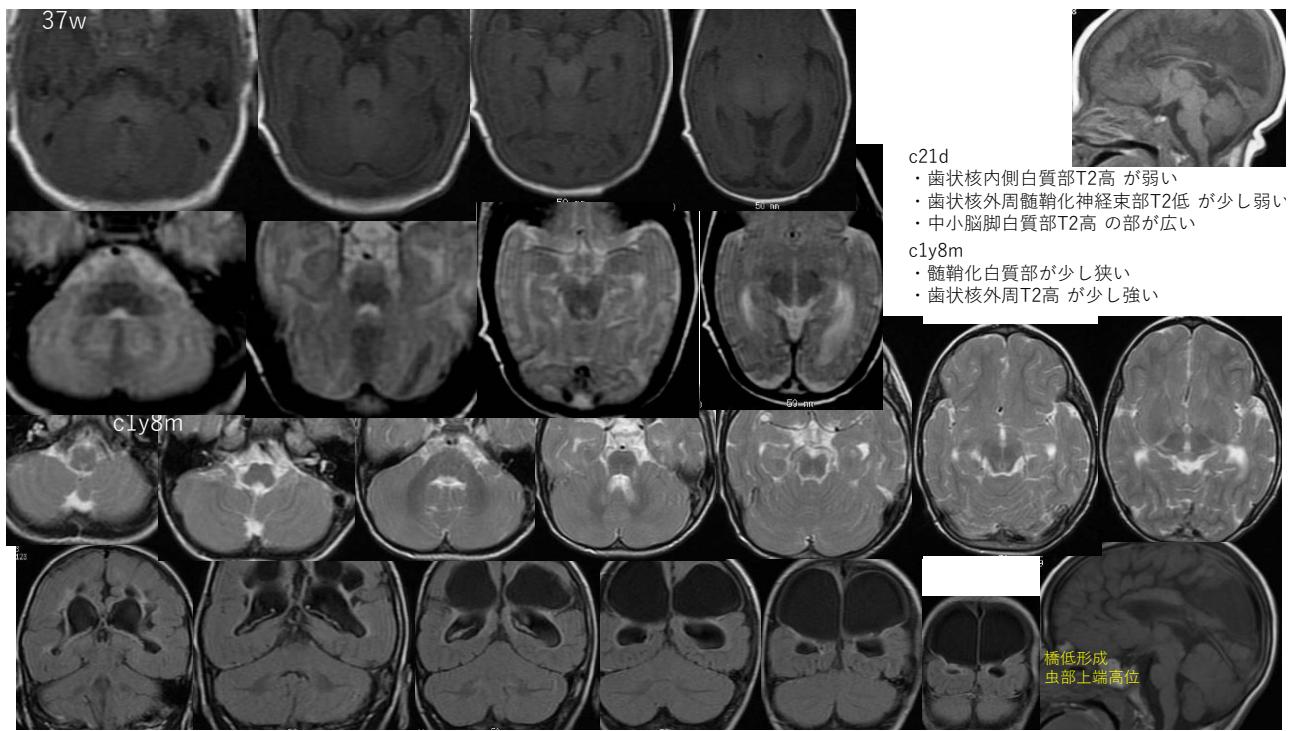
*上肢は屈曲常時筋収縮状態 > 伸展常時筋収縮状態

27



28

14



29

早産白質障害の小脳病変

満期時MRI所見

歯状核内側白質部 (T2強高信号) ・ T2高信号の減弱 ・ 同部の萎縮

歯状核外周髓鞘化神経束 (T2低信号) ・ T2低信号の減弱

中小脳脚白質部 (T2弱高信号) ・ 広域なT2高信号 ・ T2低信号化



幼児期MRI所見

- ・白質の低容量 ・歯状核外周部のT2強高信化 ・小脳溝の拡大
- ・虫部上端高位 ・室頂高位

➤ 症候との対応は不明確

30